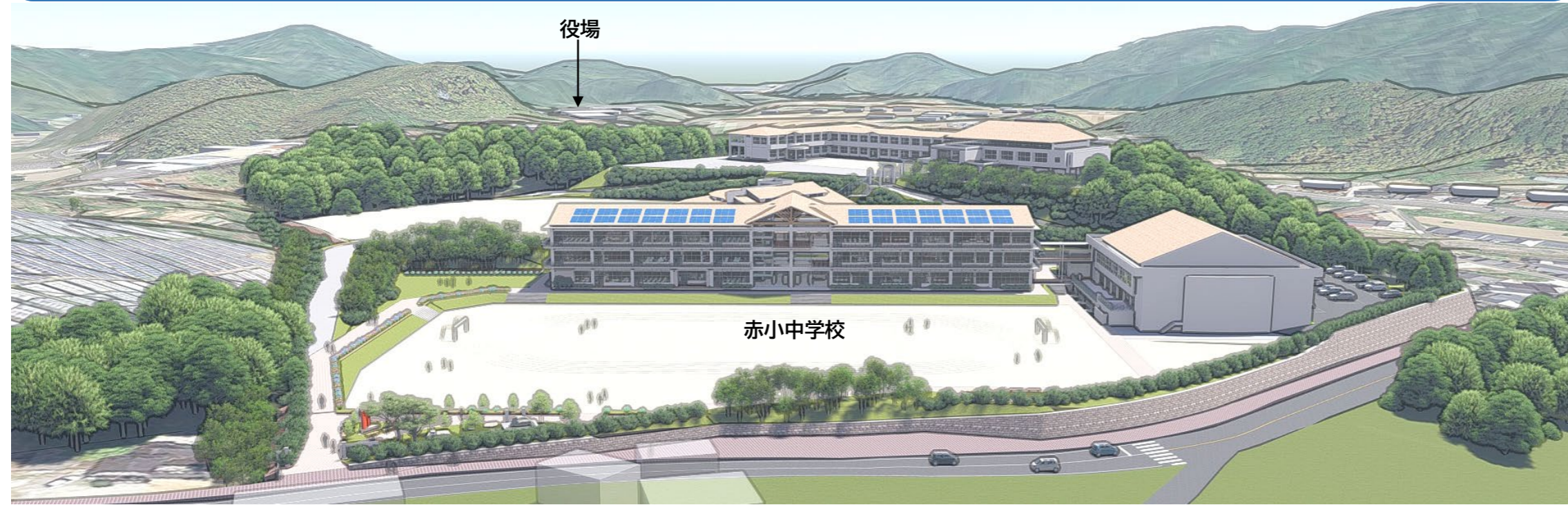


●業務の実施方針

実施方針は、業務への具体的な取組体制・担当チームの特徴、工程計画・動員計画及びその他業務実施上の配慮事項を簡潔に記述すること

「人づくり・むらづくりの拠点」となる、みんながつながる学校
—赤村が推進する「やさしくたくましい子を育ていきいきと暮らす」むらづくりにつながる学校を目指します—



弊社の強みを活かした業務の実施に当たっての取組体制

■全国に展開する技術者集団として「3つの強み」で高品質で満足度の高い設計を行います。
・発注者のニーズに的確に応え、全国に展開する組織事務所として、下記の「3つの強み」を活かした効果的で効率的な業務推進体制で高品質で満足度の高い設計を行います。

▼「3つの強み」を活かした業務推進体制

01. 全国に展開する支店の強みを活かす

全国に技術者を配した25の支店を展開する地域対応型組織事務所として、地域のニーズを的確に捉え、発注者に寄り添い迅速な対応で高品質で満足度の高い設計を行います。

02. 全社横断の設計チーム体制を活かす

全社を横断した類似案件の経験豊富なスタッフや案件に即した専門スタッフを加えた設計チーム編成を行い、これまでに蓄積したノウハウを的確に活かした設計を行います。

03. 全社的なノウハウの蓄積を活かす

教育施設を中心に年間400件近くの多様な業務の実績ノウハウをデータベースとして本社に集約し、いつでもどこからでもアクセスできる体制で迅速な設計を行います。

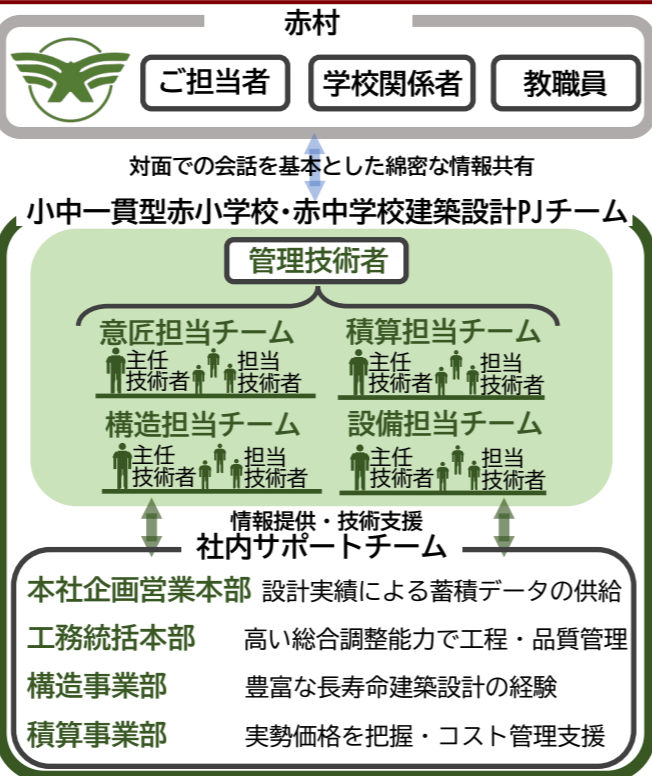
編成する設計チームの特色

- 経験豊富で調整能力に優れた管理技術者が統率します
 - ・当社は全国各地で学校教育施設を含む設計業務の実績が豊富にあります。今回設計業務においては『教育施設における多様な学習環境』に精通した設計チームを編成します。
 - 各担当チームの役割と方針
 - ・各担当チームではそれぞれ明確な役割と設計方針を定め、適正な業務を行います。
- 意匠担当チーム
明確な動線・平面計画の立案と、誰もが利用しやすい施設づくりを提案・実現させ、長期的な利用が見込める施設づくりを行います。

○ 設備担当チーム
住宅性能評価における「維持管理」「温熱環境」「空気環境」「音環境」「防犯性」に準拠させ、居住環境の向上を図ります。

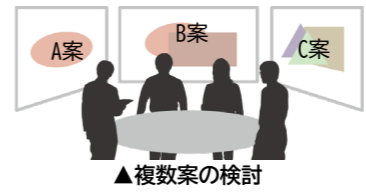
○ 構造担当チーム
安全・安心に施設を利用して頂けるように、耐震性に十分配慮した構造計画に加え、コストバランスの良い構造設計を行います。

○ コスト管理チーム
計画初期段階、基本図作成時、詳細図作成時と各段階毎にコストの確認・チェックを行うとともに、コスト削減にも取り組めます。

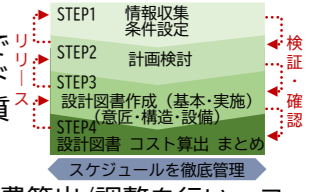


全体工程を見据えた業務の遂行

- みんなで「共に創る」確実な工程計画
 - ・ワークショップの意見交換をふまえて、計画案へ確実に反映出来る工程計画を行います。
 - ・基本方針を検討する際は必ず複数案を提示し、利点や課題、コストなど多角的な比較検討を行うことでみんなと共に学校施設づくりを行います。
 - ・関係者の声を汲み上げる施設づくりとするため住民説明会・定例会を行い確実な合意形成を図ります。
 - ・担当窓口を一元化し、要望や検討依頼をワンストップで答える体制を整え、関係者との連携をスムーズに行います。
 - ・各段階でのワークショップ・説明会の議題とこれまでの決定事項を明確化し「今どの段階にいるのか」を関係者が具体的に共有できる取組を行います。



- 手戻りのない業務工程
 - ・既存建物の状況や敷地の使用状況を調査し、最適な設計提案を行います。
 - ・初期段階から構造・設備と連携・協働し各種事前相談を行い、基本設計へと反映することで事業全体スムーズに進むよう配慮します。
 - ・各段階での最終チェックポイントで成果の検証・確認を行い、フィードバックを確実にすることで、高品質で手戻りなく業務を遂行します。
- きめ細かなコスト管理
 - ・基本設計中に合計3回の超概算工事費算出/調整を行い、コスト超過のない設計を進めます。
 - ・基本設計中の概算では各工種の㎡単価での設定だけでなく外装、建具、杭、各設備など金額が多い大項目に関して見積もりを実施し、実施設計でのプレを少なくします。
 - ・価格変動に対応できるように、設計の各段階でチェックを行いながらコスト管理を行います。



項目	令和5年												令和6年												令和7年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
全体事業工程	基本設計(7か月)												実施設計(10か月)												確認申請		
会議等	関係者打合せ及び資料説明(月1回程度)												対面での会話を基本とした綿密な情報共有												実施設計		
ワークショップ	基本設計に関するワークショップ												学校機能に関するワークショップ												児童・保護者・施設関係者とのヒアリング		
測量業務	調査・測量												基本設計												実施設計		
外構・敷地造成設計	整理 現地調査・75%計画												関係機関協議												設計図書作成		
既存校舎の解体設計	整理 現地調査・75%計画												関係機関協議												設計図書作成		
屋内運動場の改修設計	整理 現地調査・75%計画												関係機関協議												設計図書作成		
新校舎	条件整理												基本設計												まとめ		
基本設計	条件整理												基本設計												まとめ		
実施設計	条件整理												基本設計												まとめ		
概算/積算	概算工事費精												超概算												概算		
法令・申請関係	法令等確認												事前協議												必要に応じて協議		

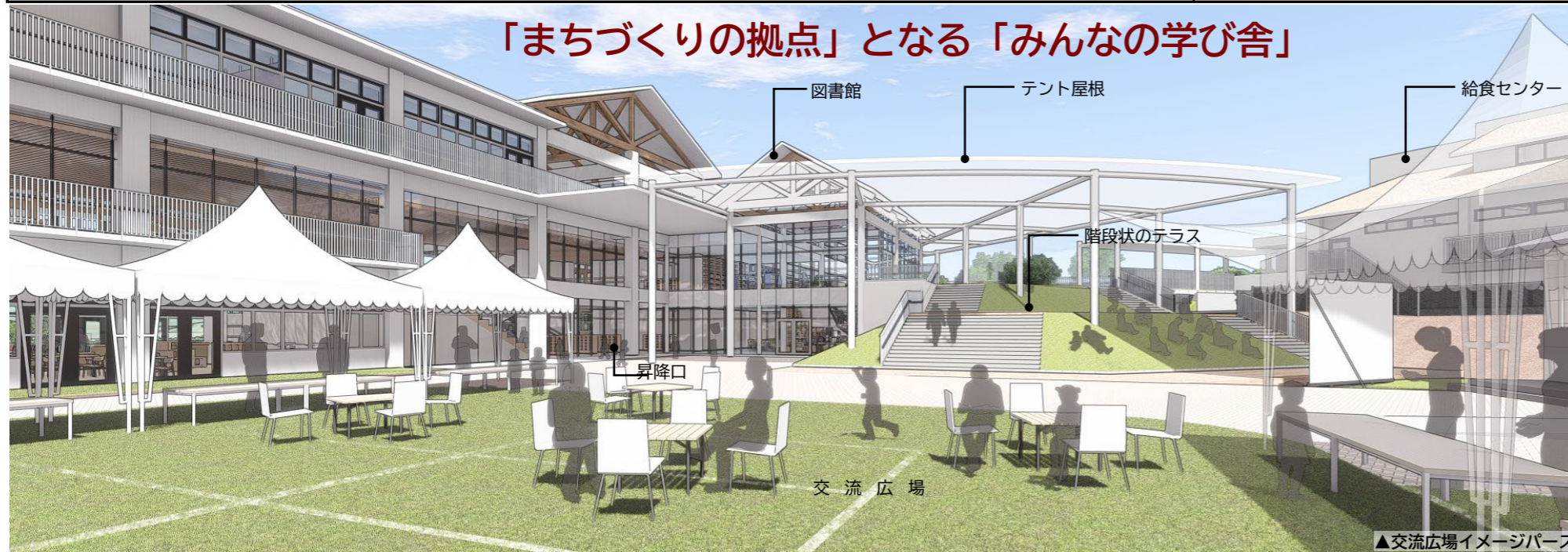
工事発注・新校舎建設工事等

課題①「基本構想等を踏まえた設計コンセプト」

●課題①：基本構想等を踏まえた設計コンセプト

- ・基本構想における整備コンセプトと方針を念頭においたもの
- ・計画概要説明書の各事項に概ね即したもの

「まちづくりの拠点」となる「みんなの学び舎」

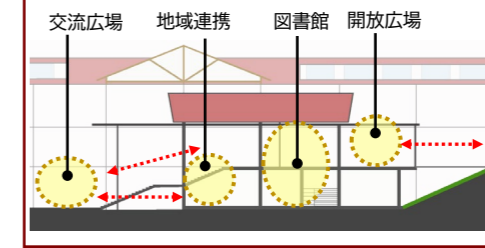


みんなとつながる学校づくり —設計のコンセプト—

児童・生徒や教員、保護者、地域住民、みんなが集い、豊かな学びを生み出す「みんながつながる学び舎」をテーマとし、赤村が取り組む「むらづくり」の理念に対応する2つのコンセプトを設計の方針として、これからの赤村を担う子どもたちを育み「まちづくりの拠点」となる「みんなの学び舎」を実現します。

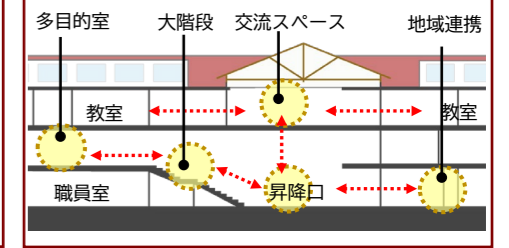
01 地域と共にみんながつながる学校

- ・地域に開かれた自由にアクセスができ、交流を図れる空間を計画します。
- ・いつでも気軽に活用できるむらづくりの拠点スペースを創ります。
- ・学校と地域が共に子供たちを育てる交流と学びの場を創ります。



02 みんながつながる自由な学びの場

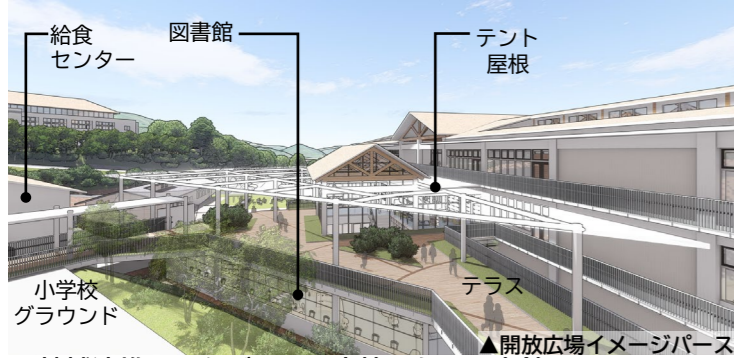
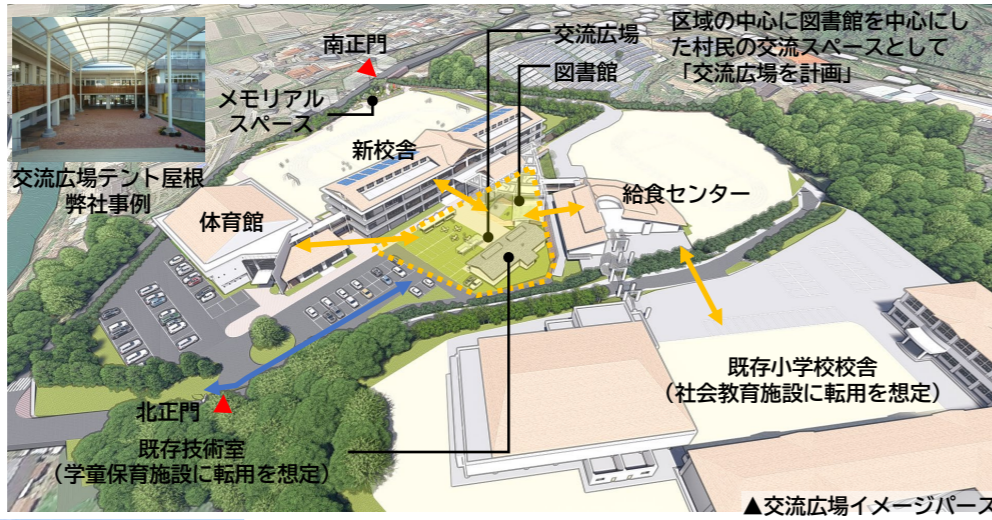
- ・子供たちの自然で自由な発想で多様な活動ができる環境を創ります。
- ・みんなと触れ合い学びを高め合う交流と触れ合いの環境を創ります。
- ・児童・生徒、学年を超えた交流と触れ合い協働が図れる空間を創ります。



01. 地域とつながるみんなの施設を創ります

■地域とつながる交流広場

- ・東側に図書館と一体に地域に開かれた交流広場を計画します。
- ・敷地の高低差を活用した緩やかな緑の斜面と階段状のテラスで小学校グラウンドや給食センターに自然にアクセスできる広場空間を創ります。
- ・雨に濡れず活動できる場としてテント屋根の設置を計画します。
- ・校舎前の駐車場は緑化舗装として、地域のイベントなどに活用できる計画とします。
- ・交流広場は既存小学校や技術室校舎の利活用時にも車の動線と交差しない安全なスペースとして地域の中心として計画します。

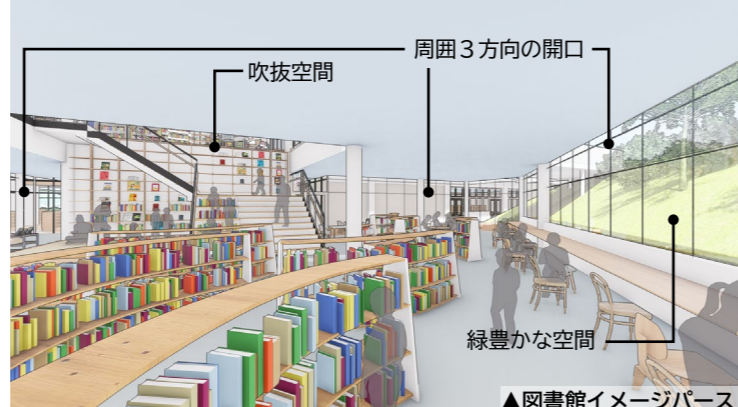


■地域連携とむらづくりの中核になる図書館

- ・新校舎と給食センターの間に敷地の高低差を活用して図書館を計画します。
- ・校舎と分離した別棟として計画し、村民がいつでも気軽に利用でき、管理運営がしやすい計画とします。
- ・図書館位置は既存本校舎に干渉しない範囲に計画して1期工事で施工可能な計画とします。
- ・図書館に隣接して校舎側には地域連携室を計画し図書館と一体に村民が活用できる計画とします。
- ・周囲3方向の開口で風が通る開放的な空間を創ります。
- ・2階への階段の読書スペースや畳コーナー、みどりを望むカウンター席など多様な学びのスペースを計画します。

■図書館屋上の開放広場

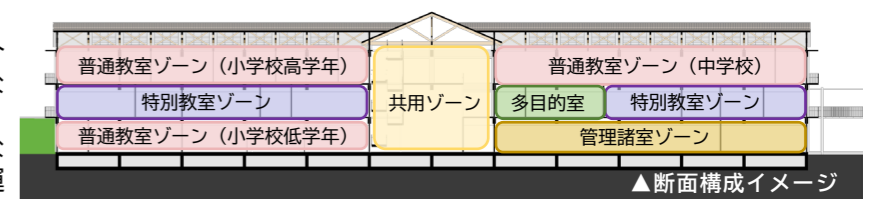
- ・図書館屋上は、開放広場として緑化とウッドデッキで地域に開かれた憩いと交流の空間として計画します。
- ・テント屋根のある屋上広場は、児童生徒のランチルームへのルートとして休憩や語らいの場となります。
- ・小学校グラウンドへの児童の経路として体育授業の準備や休憩の空間として利用できる空間とします。
- ・小学校グラウンドへの斜面は植栽帯として既存樹木を活かし緑豊かな明るく落ち着いた環境を創ります。
- ・斜面に面した開校は腰壁を設け排水と安全を確保します。



02. 多様な学習に対応するみんながつながる学びの場を創ります

■小中が一体につながる施設構成

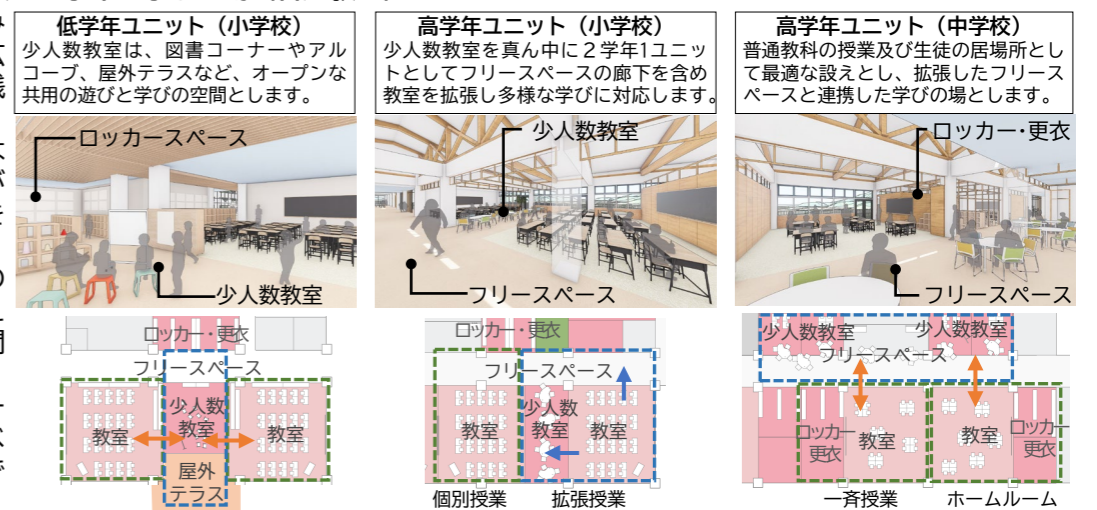
- ・校舎中央の昇降口、階段やホールなど共用部を介し東西に教室や管理諸室を配した移動距離が少なくシンプルな施設構成とします。
- ・校舎の中央は、小中共用の交流と連携の空間となる交流スペースとして計画し、小中の一体的な運用と交流・活動が計れる計画を行います。



- ・1階には、管理諸室と低学年教室及び特別支援教室を配置し、見守り易く細やかな学びへの対応がしやすい計画とします。
- ・2階には、小中共用となる特別教室や多目的室を集約配置し上下から利用しやすく小中の交流を促進する計画とします。
- ・3階には、小中の普通教室を学びの違いを配慮して東西にゾーン分けして集約し学びの交流を促す計画とします。

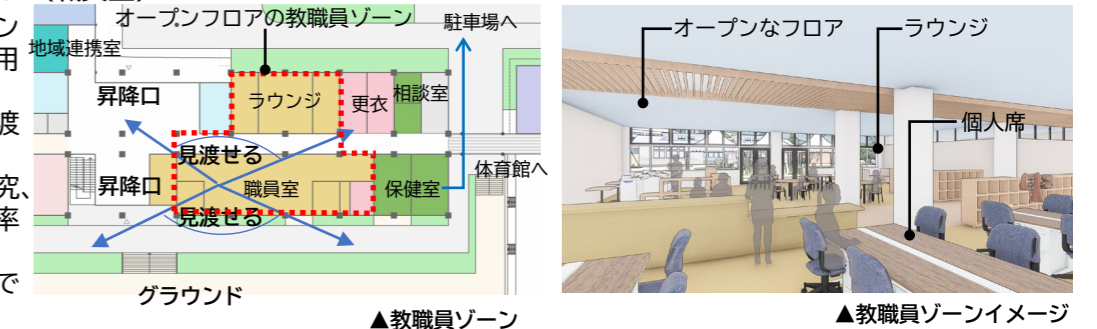
■多様な活動を誘発する大きな教室の学年の学びの場（普通教室）

- ・教室と廊下、小人数教室を組み合わせ、学年ユニットとして広い空間で多様な活動が常々実践できる空間とします。
- ・児童・生徒ロッカーを教室とは別に設け教室空間を子供たちが広く、自由に活用できる空間を創ります。
- ・間仕切りは全てフルオープンで可動間仕切りとして学年を超えた学びと交流が展開できる空間を創ります。
- ・個人机に加えて、グループテーブルや移動ホワイトボード、ベンチなどが自由にレイアウトできる空間とします。



■先生たちが協働する教職員ゾーン（職員室）

- ・教職員ゾーンは壁のないオープンフロアの空間として柔軟に活用できる計画とします。
- ・職員室は校庭やアプローチが見渡せる場所に配置します。
- ・個人席に加えて、授業準備や研究、打合せや相談等が快適かつ効率的に行える環境とします。
- ・ICT環境により、学校全体どこでも仕事ができる環境とします。



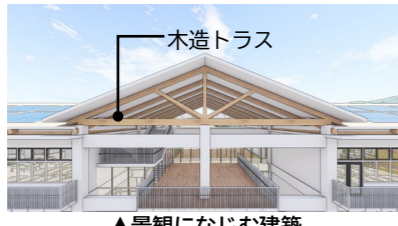
●課題③：基本構想等に記載のない事柄に関する独自提案

■自然につながり景観に馴染む校舎を提案します。



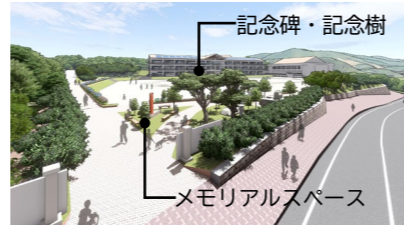
■赤村の歴史と文化を継承し周辺の景観になじむ建築

- ・シンプルで誰にも愛着の持てる外観とします。
- ・周囲の景観や既存建物に調和する屋根のあるデザインとします。
- ・中央は象徴的なデザインの木造トラスとします。



■学校の歴史を継承するメモリアルスペース

- ・学校の石碑等を展示するスペースを敷地内の校庭の一部に設けます。
- ・学校の校庭に植わっている記念樹を移植するスペースを校庭と交流広場の一部に設けます。



■木のぬくもりを感じる快適な内装計画（仕上げ材）

- ・異年齢の子供たちが利用する空間として、優しくぬくもりのある木質系内装材を使った空間を創ります。
- ・教育施設の木質化に積極的に取り組んでいる当社実績を生かし、床・壁・天井それぞれに木材の特性をふまえた最適な材料で快適な空間を創ります。



■環境に配慮したエコスクールの実現を提案します。

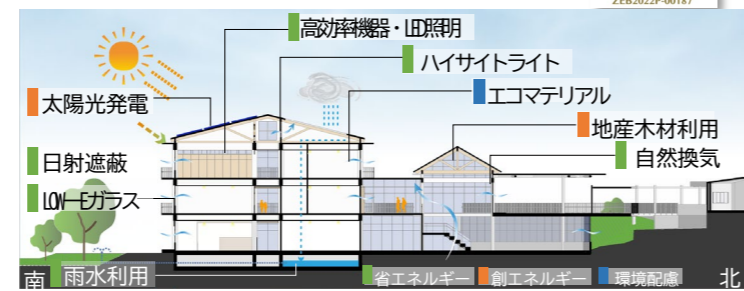
◆ZEB化やエコスクールに精通した技術者チーム

- ・弊社は全国に多数の教育施設の実績を有し、経済産業省管轄のZEBプランナーに登録して、環境配慮に取り組んでいます。本業務ではZEB案件やエコスクール案件の実績がありZEBへの対応に精通した技術者チームで効率的な業務推進を実現させます。



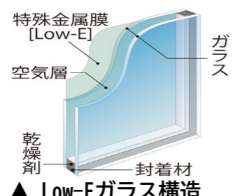
■ZEB Ready (BEI ≤ 0.5) を実現した持続性の高い校舎

- ・省エネ機器の導入や外皮性能の高度化を図り予算工事費内で確実にZEB Ready (BEI ≤ 0.5) を達成する消費エネルギー削減の手法を提案します。
- ・将来のZEB化を見据えて太陽光発電の増設を可能なスペースを確保した計画とします。
- ・学校施設そのものが環境教育の教材として活用される計画とすると共にエネルギーや太陽光発電設備等の導入技術の仕組み等の「見える化」・「見える化」を行います。



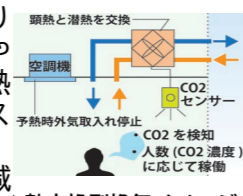
■高断熱化・日射制御 (6%低減目標)

- ・断熱仕様の強化、サッシ性能（気密性・断熱性・遮音性など）の向上を図ります。
- ・日射遮蔽の庇やバルコニー設置で外皮性能を向上します。



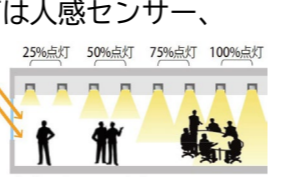
■高効率機器の採用 (19%低減目標)

- ・空調機器は高効率型EHP方式の個別パッケージ型で省エネを図ります。
- ・予熱時外気取り入れ停止機能やCO₂センサー全熱交換型換気システムを導入し、空調ロスを低減します。



■センサー制御LED照明 (13%低減目標)

- ・低消費電力で長寿なLED照明を全館採用します。
- ・トイレ、廊下は人感センサー、各居室は照明のスケジュール制御を行い負荷低減をします。



・他者と差別化されたセールスポイント

■「共有、参画、協働」を実践するワークショップを企画提案します。

世代を超えた対話をベースに学校づくりを行うことは、学校や村民、行政が協働する大きな契機となります。完成時の喜びが増すことはもちろんのこと、地域住民や児童・生徒が利用しやすく当事者意識の向上につながります。

■対話と提案を重視した業務推進

- ・さまざまな意見や利害を乗り越えて相互理解を深めるために、段階ごとの進捗状況を村民に情報公開するサポートを行います。
- ・ワークショップは施設の原型をつくることから始め、関係者の皆様とともに未来の学校をかたちにしていきます。



■手戻りのないワークショップを実施

- ・ワークショップは毎回具体的な議論ができるよう明確なテーマを設定します。ワークショップはグループワーク形式で行い、様々な立場の参加者が議論しやすい場をつくります。
- ・基本設計ではこれからの学校のあり方やこの場所で大切にすべき課題を踏まえて必要となる「設え・建築空間」を導き出し、配置や平面計画、建築デザインの方向性を決定します。

■経験豊富な設計チーム編成

- ・学校づくりの実績豊富な建築計画の専門家と協力し、皆様とともに使いやすいだけでなく永く愛される施設を設計します。
- ・県内実績を含めて学校建築をはじめとした教育施設の設計経験豊富な担当者を配置し、地域の気候風土に即した設計を行うと共に、地の利を活かして行政や学校関係者に対して迅速かつきめ細かな対応を行います。

■イメージの共有化

- ・短時間で効率的な業務を行う工夫として「イメージシェアリング」を業務コンセプトとします。
- ・「言葉とイメージ」計画時に明快なイメージを立ち上げ、スムーズに基本設計に繋がります。



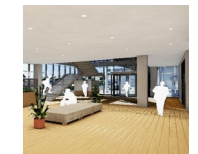
■村に寄り添った業務の推進

- ・コミュニケーション能力の高いスタッフが常に行政に寄り添い、分かりやすい資料作成し、スムーズな業務推進に尽力します。



■BIMによる業務効率化

- ・全社で展開しているBIM(3Dモデル)によるチームワーク設計など先進的な手法を駆使して効率的な設計を行います。
- ・3Dモデルによる環境シミュレーションにより、常に適切な資料で協議します。



■利用者等からの意見・提案を確実に設計に反映させるための設計プロセス

- ・意見やアイデアを出し合う「対話」を大切に、定期的なワークショップや2週間に1~2回程度の密なプレゼンテーションを重ね、関係者の要望やニーズ、実状に沿った設計を行います。
- ・重要な決定事項の前倒しと決定時期を明確にしたスケジュール管理により、手戻りのない設計を行います。
- ・価格変動に対応できるように、設計の各段階でチェックを行いながらコスト管理を行います。

■村の防災拠点としてのBCPに配慮した計画を提案します。

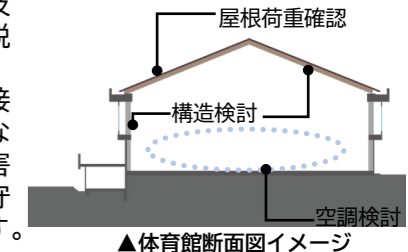
■あらゆる災害に耐える校舎づくり

- ・2回線受電、非常用発電機、太陽光発電、外部電源接続などを検討し、ライフラインの多重化と自然エネルギーを活用した自立インフラを確立し、災害発生時にも地域防災拠点としての機能を継続できる計画を行います。
- ・ドアや天井など非構造部材の耐震化や、本棚等の家具の転倒防止を行い、地震発生時の安全を確保し、継続利用ができる校舎とします。
- ・災害発生時には体育館や2階の多目的室を避難所として開放できる計画を行います。備蓄庫を設け、避難所への転換と支援活動をスムーズに行える計画とします。



■災害時等の避難所としての施設計画

- ・避難所となる体育館は、屋根荷重の確認・構造検討や改修仕様を検討し安全性の高い計画を行います。
- ・体育館の空調設備の検討を行い、災害時の避難施設としての居住環境に配慮した計画を行います。
- ・交流広場には、かまどベンチやマンホールトイレを設置し、平時から防災教育を行える環境とします。
- ・風圧や地震その他振動及び衝撃によって天井が脱落することのないよう、吊りボルトを増やし、接合金物の強度を上げるなどの安全性を高め、災害から地域社会・住民を守れる施設づくりをします。

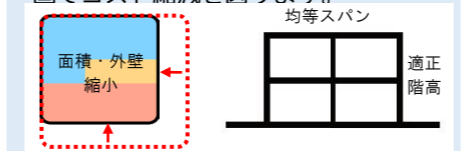


■コスト低減を図る効果的な計画・工法を提案します。

限られた予算の中で確実なコストコントロールを行うには、設計当初よりコストを意識した計画が重要です。ローコストで価値を高める計画や工法を採用すると共に、各段階での正確なコスト把握を行い計画の確実な遂行を図ります。

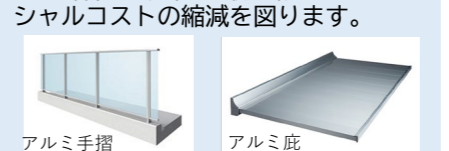
■合理的で経済的な計画

- ・単純でコンパクトな平面計画や均等空間モジュールの構造計画と適正な階高の設定など、設計の初期段階から構造体のコストを意識した合理的な計画でコスト削減を図ります。



■汎用・規格部材の採用

- ・金物や建具、手摺等の部品は統一したディテール及び寸法とした、日常修繕しやすくコストの低い汎用品を採用します。規格化された製品を使用することで端材や廃材を最小限とし、インシヤルコストの削減を図ります。



■使用材料の統一化

- ・使用材料を可能な限り標準化・統一化し、資材の無駄を省き作業の単一化と工程の簡素化を図ると共に工事中の資材管理の簡略化、保管スペースの削減によりコスト削減を図ります。

